八甲田山の火山活動解説資料（平成 30 年 11 月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図１～図５）

大川原及び地獄沼に設置している監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

21 日に実施した現地調査では、前回（７月 24 日）と比較して、地獄沼周辺の噴気や地熱域、地中温度の状況に特段の変化は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図６）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図７、図９）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

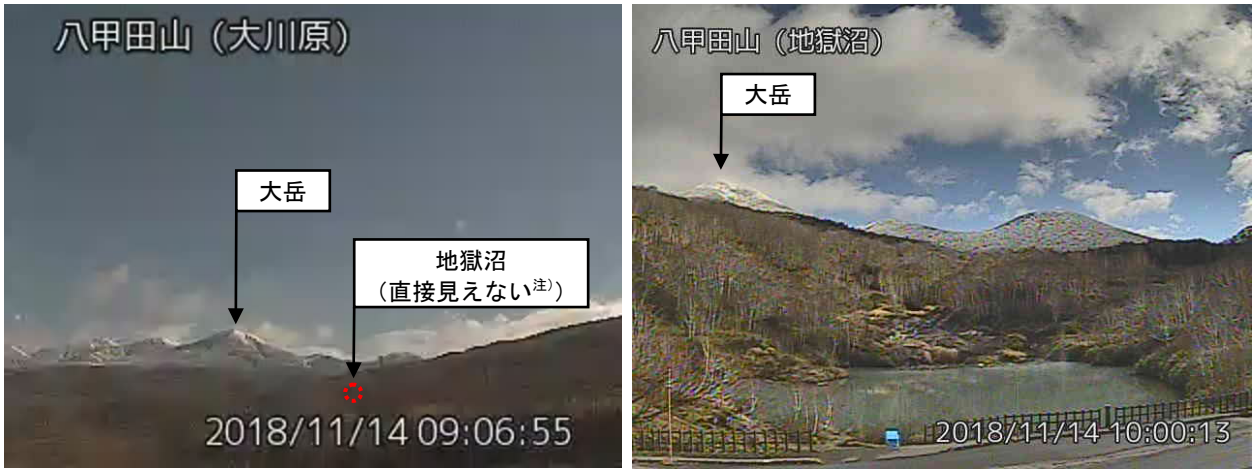

図１　八甲田山　山頂部及び地獄沼周辺の状況

・左図：大川原（大岳の西南西約６km）に設置している監視カメラの映像（11 月 14 日）です。

・右図：地獄沼（地獄沼の西約 100m）に設置している監視カメラの映像（11 月 14 日）です。

注）地獄沼から噴気が噴出した場合、大川原では高さ 100m以上のときに観測されます。
赤破線が地獄沼の位置を示します。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（https://www.jma-net.go.jp/sendai/）や、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成30年12月分）は平成31年１月11日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び青森県のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています（承認番号　平29情使、第798号）。

図２　八甲田山　周辺の地形図

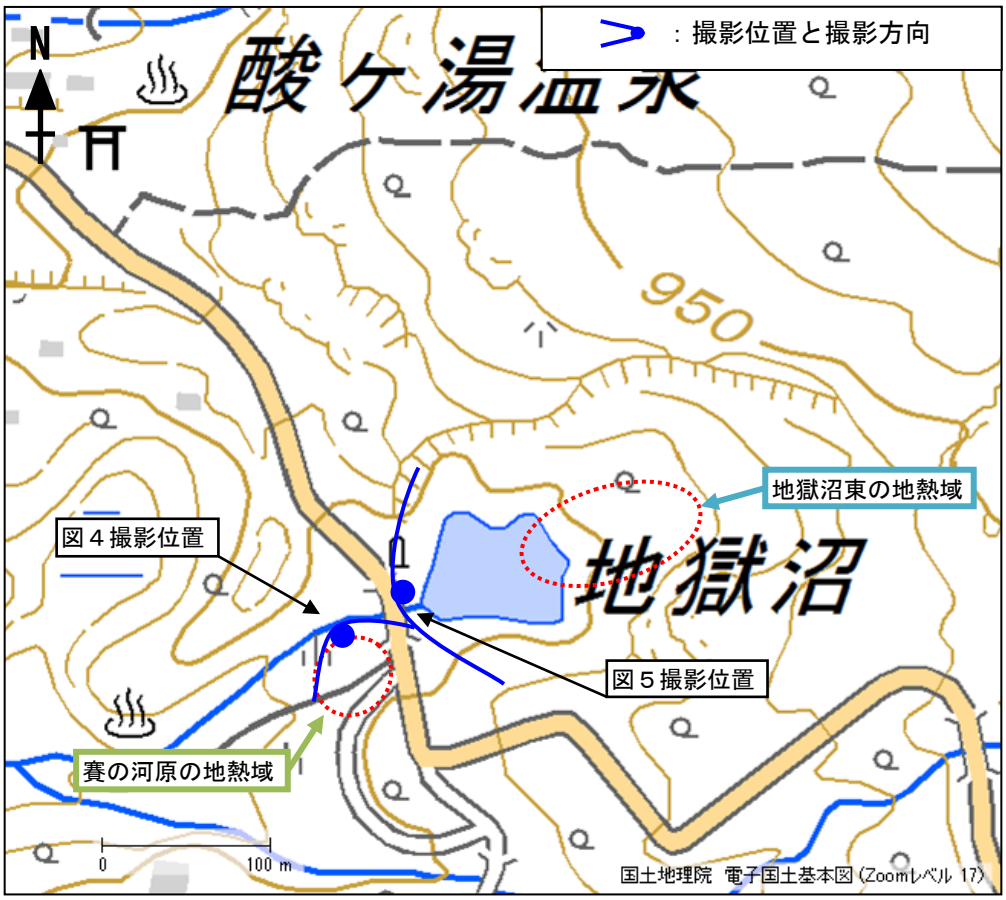

図３　八甲田山　地獄沼及びその周辺の写真と地表面温度分布[1)] 撮影位置、撮影方向

1）赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

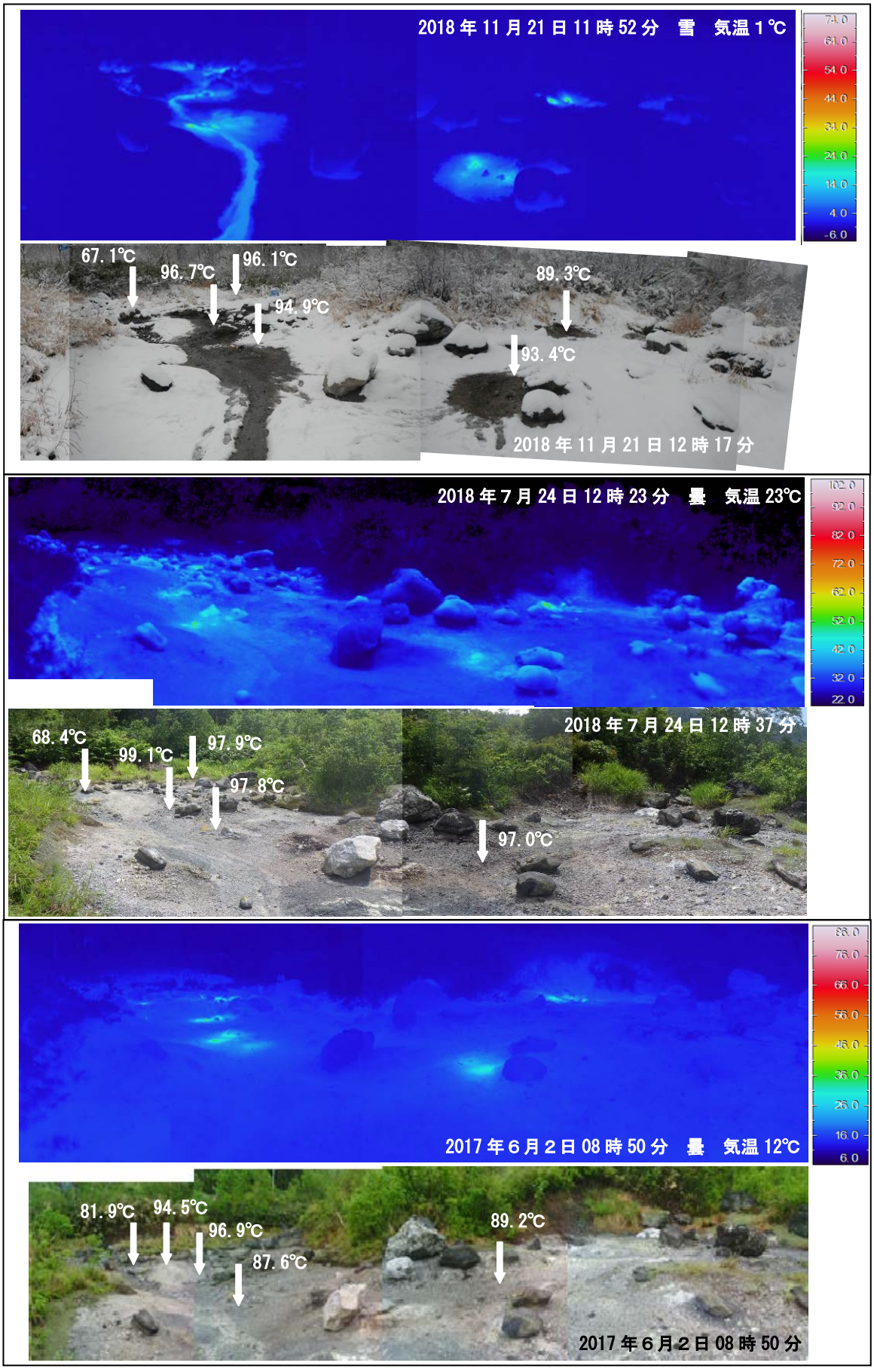

図４　八甲田山　北方向から撮影した賽の河原の状況と地表面温度分布

・地熱域の分布に特段の変化は認められませんでした。
（※地熱域以外で温度の高い部分は、岩等が日射により温められたことによるものと推定されます。）
・矢印↓は温度計により地中温度を測定した場所を示します。

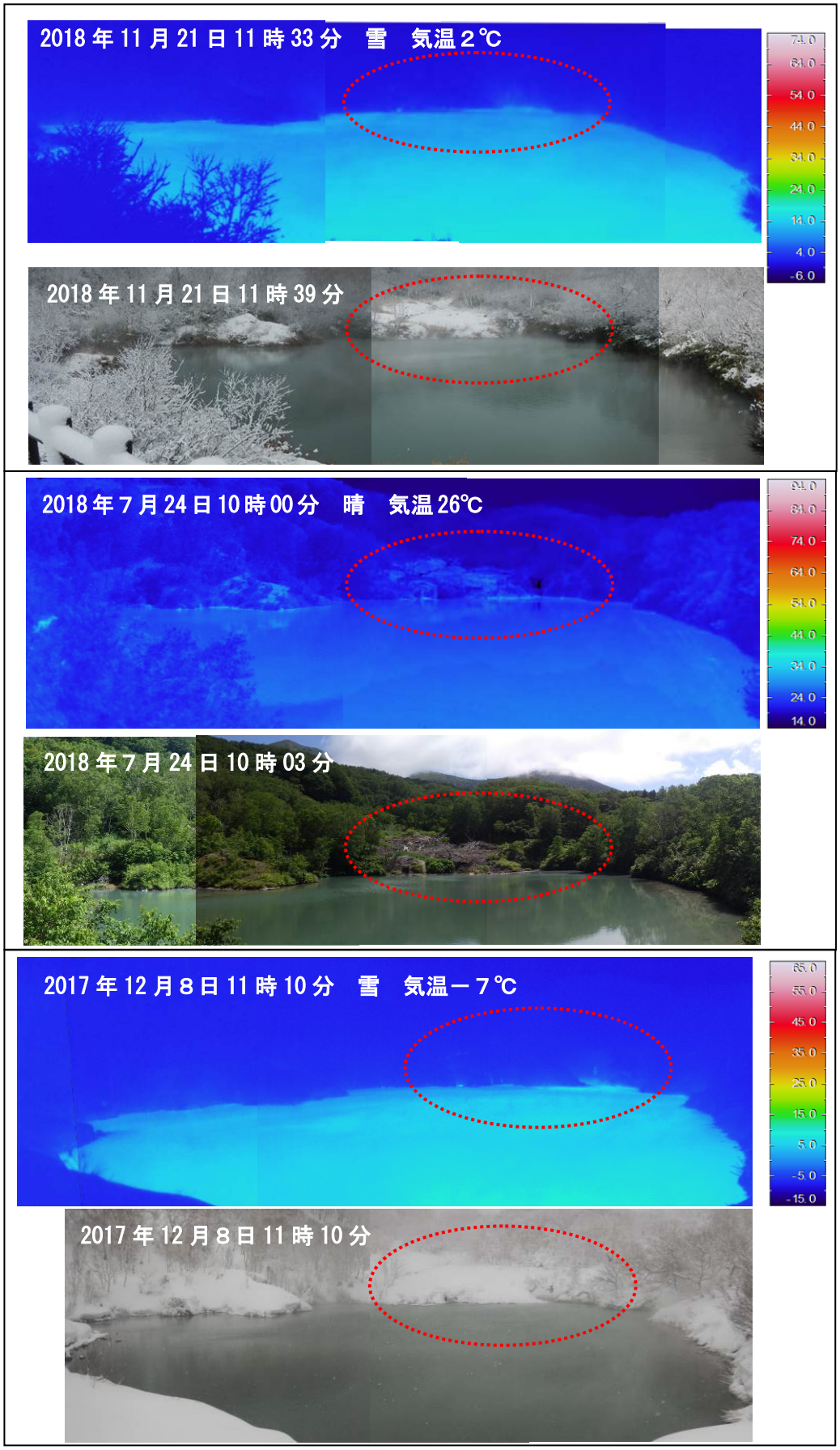

図５　八甲田山　西方向から撮影した地獄沼の状況と地表面温度分布

・これまでと比較して、地熱域（赤破線内）に特段の変化は認められませんでした。

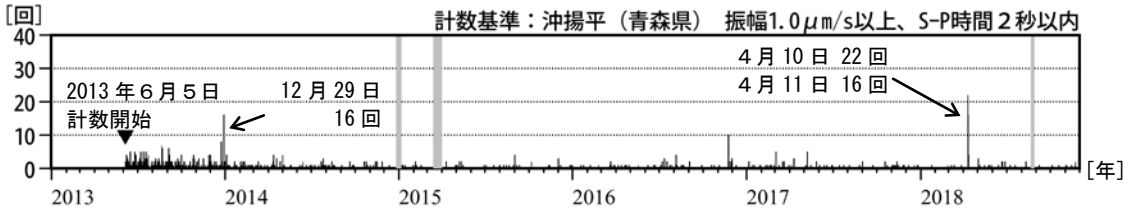

図６　八甲田山　日別地震回数（2013 年６月～2018 年 11 月）

・灰色部分は欠測を表しています。

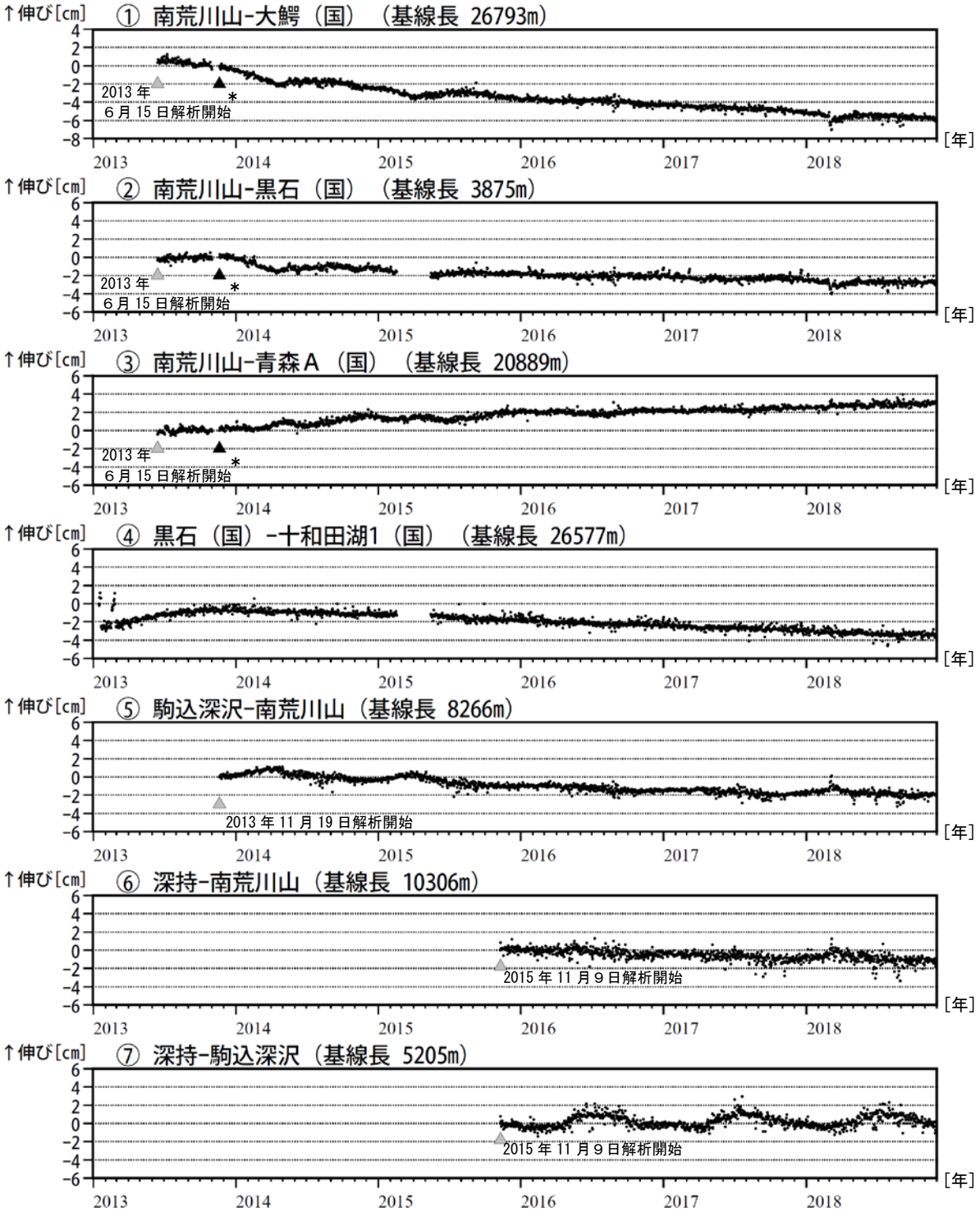

図７　八甲田山　GNSS[2)] 基線長変化図（2013 年１月～2018 年 11 月）

・空白部分は欠測を示します。　　・（国）は国土地理院の観測点を示します。

・①～⑦は図９の GNSS 基線①～⑦に対応しています。

＊：2013 年 11 月に南荒川山観測点の機器更新及び移設、解析方法の変更を行いました。

２）GNSS とは Global Navigation Satellite Systems の略称で、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示します。

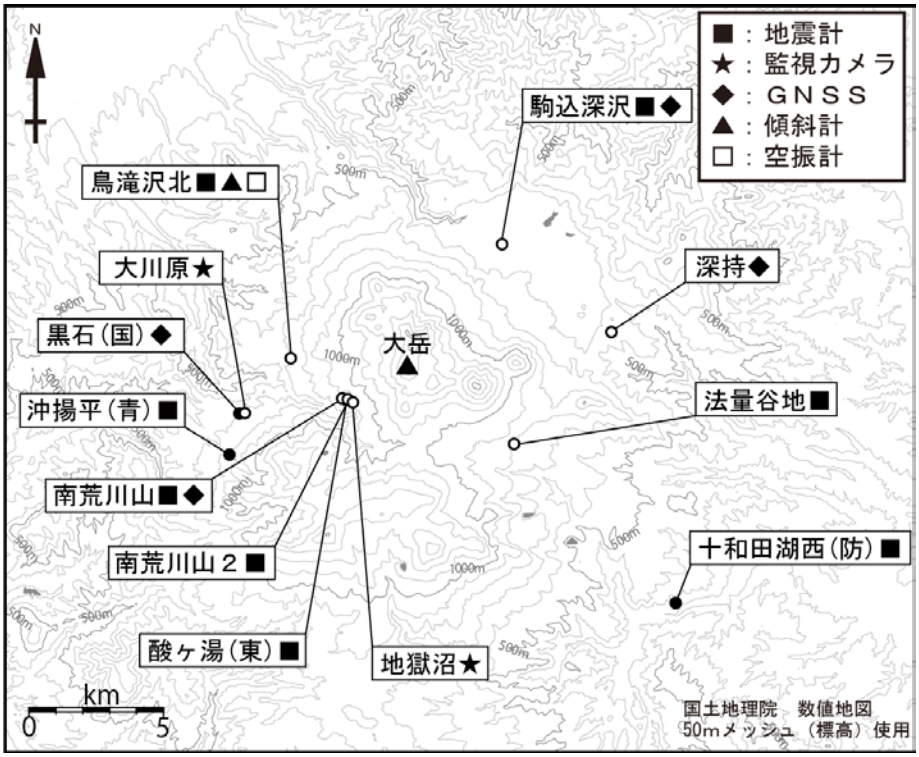

図８　八甲田山　観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院　（東）：東北大学　（防）：防災科学技術研究所
（青）：青森県

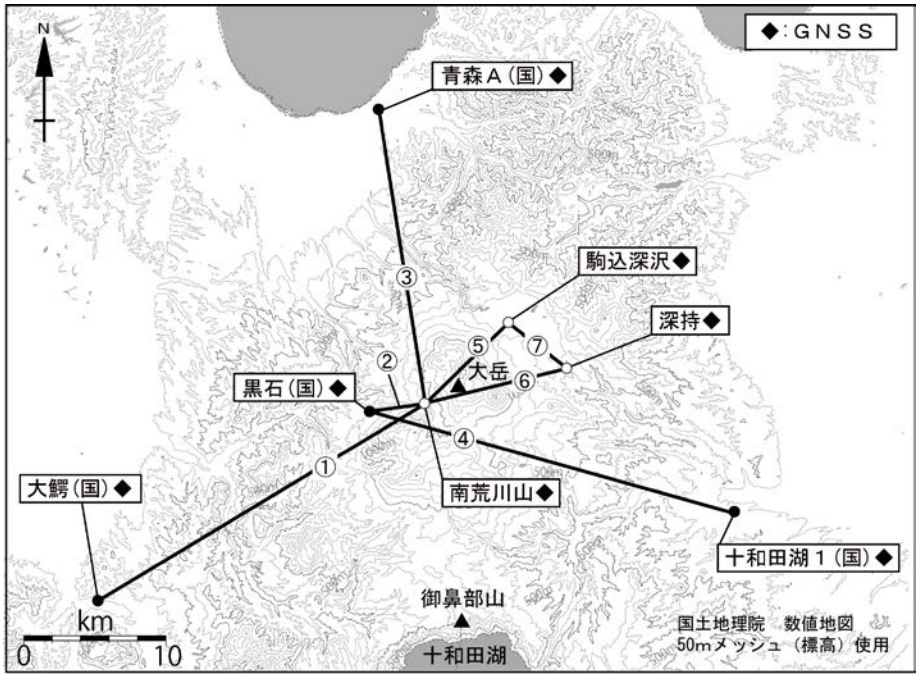

図９　八甲田山　GNSS 観測基線図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院